

四季の風

2016
冬号
Vol.43



初詣



1月8日、太宰府天満宮にて初詣を行いました。

毎年アンケートを実施し行先を決めていますが、皆さん、やはり慣れたところでゆっくり参拝したいと思われた方が多かったようで、5年連続の太宰府天満宮となりました。

当日は気温が低く、小雨模様という悪天候の中、まずは本殿に集合。

それぞれの願いを胸に参拝を行ない、グループごとに『飛梅』の前で記念撮影。記念撮影後は、みなさんお待ちかねの昼食です！予算内で昼食と1個以上梅ヶ枝餅を食べる為の計算を即座に行なわれる方が今年もいらっしゃいました。昼食と計算通りの梅ヶ枝餅に大満足されていたようです。

何分、悪天候であったこともあり、昼食後は即、バスに戻られた方もいらっしゃったようですが、反対に、時間の許す限り散策されている方もいらっしゃるなど、皆さんそれぞれのペースで楽しまれたようでした。

平成28年が皆さんにとってより良い一年になりますように…。



Xmas 食事会



仁風園では食事会とイルミネーションツアーを隔年で行っており、今年度は園でのクリスマス会を行ないました。

サンタをかたどったイチゴが飾られた手作りケーキや、ツリー型のポテトサラダなど、クリスマスムード満載の料理に「かわいい」と声があがり、利用者も職員も大満足。

プレゼントを抱えたサンタの登場に会場がどよめき、博多弁のサンタにみなさん『誰?』とハテナ顔…途中でやっとな施設長と気付かれた様でした。幾つになってもプレゼントはうれしいものです。

自治会主催のゲームや栄養課への感謝の言葉など「アットホーム」で「ほっこりとした」クリスマス会になりました。



餅つき



12月25日クリスマス。仁風園では、毎年恒例行事の餅つきを行ないました。

利用者数名から、今日はクリスマスなのに・・・との声も（笑）

寒い冬空の下、農耕班メンバーを中心に、学生ボランティアさんにも協力して頂き、43kgのもち米をつきあげました。

つきたての餅はおろし餅とあんこ餅にして、その他はお正月の雑煮として、美味しく頂きました。

門松



12月初旬から準備をし、今年は仁風園以外にも乙金東公民館と老人ホームにも飾り、大変喜んで頂きました。門松作りのメンバーも朝から気合が入っており、楽しんで飾っている様でした。

節分



2月3日、春を迎える節目の日に、豆まきを行いました。雨男の職員のせい、当日の朝は雨で開催が危ぶまれましたが、なんとか開催することができました。鬼役の利用者さんの奮闘もあり、大盛り上がり。皆さんに福が訪れますように！



学習支援②

仁風園では、利用者のニーズに合わせて、様々な学習支援を行なっています。春号の栄養学習に続き、『文字学習』『数学習』について紹介します。



仁風園では、利用者の能力維持や向上のために『文字学習』『数学習』の時間を設けています。

利用者全員が対象ではなく、学習の必要な方、希望された方のみが行なっています。取り組む内容別にグループを編成し、文字学習では漢字の読み書きを、数学習では計算問題を、いずれも問題集を用いて取り組まれています。数学習ではその方に合わせ、計算問題だけではなく、出納帳の記入練習や時計の見方の練習などを行なう事もあります。

また、様々な理由で学校に通う事が出来なかった方には名前や数字を書く練習を行なってもらっています。

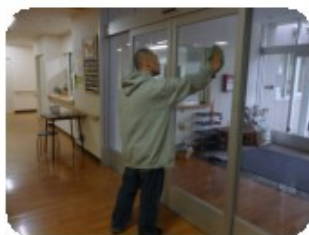
どちらも週1回、30分程度ですが、時には難問に頭を捻りながら取り組み、問題が解けた時には笑顔も見られるなど、参加されている方にとっては良い頭の体操、気分転換になっているようです。



清掃作業



仁風園では、社会性・協調性・持久性を養い、社会に適應できる能力の取得、施設生活の充実、社会復帰の一助を目的として、様々な作業指導を実施しています。作業紹介第3弾は、「清掃作業」について紹介します。



仁風園の日課で毎日の居室清掃や食事後の食堂等、各個人や当番で施設内の清掃を行っています。その中で、廊下や階段、脱衣所等の共有スペースの清掃を担っているのが清掃作業班です。その内容は多岐に渡り、日常的な、所謂「掃除」を行う事はもちろん、ポリッシャーという専門の機械を使用してのワックス掛け、排水のグリーストラップ清掃、施設車輛の洗車等も行います。仁風園の作業班の中で、実は体力的な面を最も求められる作業班と言っても良いかもしれません。メンバーは現在8名で、毎日バリバリと作業に取り組んで貰っています。仁風園の清潔保持には清掃作業班の力が欠かせないのです。

担当職員の部屋が汚い事は、今後の指導に差し支えるので皆さんには秘密です。(笑)

～医務便り～

認知症の方への対応



認知症の患者さんの治療は、薬物療法と共にリハビリ、デイケア、デイサービスといった公共のサービスを利用して、残っている身体的・精神的機能をなるべく長く維持することが必要と思われれます。

また、このような治療法に加え、ご家族や介護者がどのように認知症の患者さんと接するかということも大変重要となってきます。

認知症の記憶障害は非常に重く、時には何度説明してもすぐに忘れてしまい、同じ質問や行動を繰り返します。そんな時、家族や介護者はイライラする自分の感情を言葉や態度に出してしまい、厳しい口調で子どもに対するように叱ってしまうことが多いようです。

大切なことはその方の尊厳を守ること。具体的には、同じことを繰り返し質問されてもなるべく穏やかな気持ちで、そのたびに初めて聞いたように話をするなどです。ご家族や介護者の適切な対応によっても症状の改善や進行を遅くすることが期待できます。



編集後記

今年の冬は10年に一度と言われる大寒波に見舞われ、九州では珍しい大雪となりました。交通機関がマヒしたり、水道管が凍結したりと、職員は慣れない大雪に振り回され、自然の怖さと、備えの大切さを思い知らされました。

最近では徐々に春の足音が聞こえてくるようになりましたが、インフルエンザやノロウイルスが流行しており、まだまだ油断できません。今後も利用者・職員ともに体調管理に努めて参ります。皆様もどうかご注意ください。

『四季の風』編集委員一同

写真掲載にあたりましては利用者の了承を得て掲載しております。



社会福祉法人

仁風会
救護施設 仁風園

〒816-0901 福岡県大野城市乙金東2丁目26-5
TEL 092-503-2004 FAX 092-503-2766
<http://www.otogane.or.jp/jinpu/index.html>